

かわすみ家



粘土の一種である桐塑の胴体に切り込みを入れて裂を差し込み貼り付ける人形 **木目込み人形**

特集 / 企画展示

旧河澄家に行こう

—小学三年生会の道具体験会—

pick up!

鬼の墨彩画展 / 鬼の面づくりとチョコレート豆まき

桃の節句展—やさしい暮らし 昔にならう—

歴史コラム

日下の断「辻子谷の水車と産業」

河澄家の自然 馬酔木



展示・イベントのご案内

端午の節句展

日本の年中行事「端午の節句」に合わせ、飾り物や菰のぼり、五月人形、河童などにちなむ作品を展示します。菰のぼりや五月人形をテーマに、子どもたちが制作した作品も展示します。

会期：2024年4月20日（土）～5月12日（日）

端午の節句工作体験とコンサート
菰のぼりや五月人形を制作して展示するワークショップと、菰のぼりの演奏会を行います。その後はアンサンブルのコンサートによる演奏も楽しめます。

日時：2024年4月21日（日）
13:00～15:00
13:00～ 菰のぼり演奏会
14:00～ コンサート

定員：20名 対象：3歳以上（※有料）
申込：4月2日（日）9:30から
お電話またはホームページお問い合わせフォームより
※お申し込みは先着順です。アンサンブルのコンサートは、別途料金がかかります。

※入場料：大人100円、小人50円（※有料）
※入場料は、展示場に入場する際に徴収します。

※入場料は、展示場に入場する際に徴収します。

※入場料は、展示場に入場する際に徴収します。

pottery art class OUTOUAN

本館では、土器陶芸家「飯茶碗」の作品を展示し、和食工芸・伝統工芸の魅力を伝えるための展示を開催します。

飯茶碗 77人の

2024.3.16（土）～4.14（日）

2024年3月16日（土）～4月14日（日）
本館では、土器陶芸家「飯茶碗」の作品を展示し、和食工芸・伝統工芸の魅力を伝えるための展示を開催します。

※入場料：大人100円、小人50円（※有料）
※入場料は、展示場に入場する際に徴収します。

※入場料は、展示場に入場する際に徴収します。

※入場料は、展示場に入場する際に徴収します。

展示・イベント

「陶芸展 77人の飯茶碗」

2024年3月16日（土）～2024年4月14日（日）

「端午の節句展」

2024年4月20日（土）～2024年5月12日（日）

「生駒山自然観察ウォーキング」

2024年5月5日（日）

「古民家で手作り和菓子体験」

2024年5月19日（日）

「論語の素読会」

毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



目次

04 特集 旧河澄家に行こう - 小学三年生昔の道具体験会 -

昔の道具体験に今年もたくさんの小学三年生が来てくれました

06 日下の瀬 辻子谷の水車と産業

江戸時代から昭和中期まで生駒七谷で隆盛した水車産業について

08 イベントレポート

カラーワイヤクラフト教室

万葉の花講座

秋季ハイキング

押し花アート体験

新春大道芸公演と昔遊び

近畿大学峰滝ゼミ REPORT 古民家で餅つきとスノードーム作り

10 Pick Up

鬼の墨彩画展 / 鬼の面づくりとチョコレート豆まき
桃の節句展—やさしい暮らし 昔にならう—

12 イベントカレンダー



旧河澄家の自然

アセビ

馬酔木 / アシビ、アセボ

ツツジ科アセビ属の常緑低木

主屋西側にある数寄屋風書院造りの奥座敷楼鶴楼南に位置する、枯池式枯山水庭園の築山西側に春の訪れとともに咲きはじめます。枝先に円錐花序をだし、スズランのような白い壺型の小花が多数垂れ下がります。葉や茎に毒性があり、この葉を食べた馬が毒にあたって体が痺れ、酔ったよう

池水に 影さへ見えて 咲きにほふ
馬酔木の花を 袖に投入れな
『万葉集』大伴家持 巻二十一四五二

にふらついたことから「馬酔木」と名付けられたとされます。有毒成分を含んでいるためこの毒を逆手にとって、葉や茎を煎じて毒成分を抽出し、農作物の害虫駆除や殺虫剤として用いられました。可憐な小花で、季節を感じられる植物ですが、味見などしないよう注意してください。春の訪れを告げるアセビを愛でにお越しください。

解説を聞く



旧河澄家に到着したら、学芸員が主屋(1)と蔵(2)をご案内します。そして、綿繰り、火打ち、石臼の使い方を、パネルやタブレットを交えながら解説します。

旧河澄家に行こう

小学三年生昔の道具体験会



土間で学習シートを書く子供たち

今年も昔の道具体験をするため、二月七日(水)に大蓮小学校の三年生三十六名と先生六名、二月十四日(水)に石切小学校三年生百二十二名と先生七名がやってきてくれました。思い起こせば、石切小学校は昨年もバレンタインデーに、旧河澄家に道具体験に来てくれていました。

旧河澄家に到着したら、まずは学芸員が主屋と蔵を案内し、紙芝居などを使って江戸時代の庄屋の生活を解説し昔の道具を見学していただきます。それから綿繰り体験、火打ち体験、石臼体験をするために土間に移動してまいります。

土間では、別の学芸員が体験する道具の使い方を解説します。綿繰り体験では、江戸時代の河内木綿の生産工程について説明し、その工程の一部である綿繰りについて体験していただきました。旧河澄家で育てた実綿と石切参道にある、はたおり工房さんからいただいた実綿を、綿繰り機を使って綿種と綿毛に分ける作業(綿繰り)をしてもらいます。綿繰りで得た綿種も綿毛もお土産で持って帰ってもらい、綿の育て方の小さな紙も渡しました。火打ち体験では、旧河澄家にある火打ち箱を紹介し、旧河澄家で火打ち道具を使って火を点けた際の動画を、生徒た

石臼体験



石臼の絵を描く生徒たち(9)。大豆を入れ、石臼を回してきなこを作る(10)。たくさんの生徒たちが、大豆を挽いてくれるので、きなこがどんどん生産されました(11)

火打ち体験



火打ち金、火打ち石、火口、耐木、ろうそくがセットされた火打ち道具(7)の中から、火打ち金と火打ち石を打ち付けて火の粉を出す(8)

綿繰り体験



綿から糸になる工程(4)を学習してもらい、その行程の一つである綿繰り機を使って綿繰りをやってもらいます(5)。生徒が多い時は綿繰り機を二台使ってフル回転！(6)

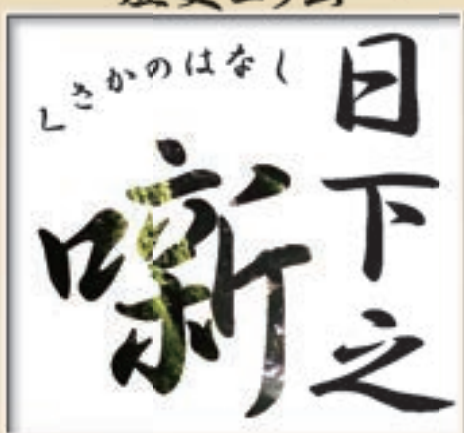
生徒たちは、見たこともない昔の道具体験を楽しんでくれているようでした。学習シートに書き込む必要もあって、熱心に質問してくれ、今年も無事に終了しました。

このような昔の道具体験は、一般の方も受付けております。団体、あるいは個人でもやってみたいと思われた方は、旧河津家までお問い合わせ下さい。ご予約お待ちしております。

一番時間がかかったのは、綿繰り体験で、人数の多い小学校では一時、長蛇の列ができてしまいました。綿繰りは、実綿がろくろにうまく入らず、入っても、なかなか綿種と綿毛に分かれず、悪戦苦闘している生徒もいて、スタッフのコツを教えたり、手助けしたりしながらやりました。火打ちは軍手とゴーグルも用意していたのですが、それでも怖がる生徒がいて、スタッフが手を添えて、火打ちを体験してもらったりしました。

ちに見てもらいました。体験では、火を点けるところまではできませんが、火打ち金と火打ち石を打ち合わせて火の粉を出すとこをやってもらいました。石臼体験では、上臼と下臼の摩擦で粉にする仕組みを説明し、大豆をひいて、きなこを作る体験をしてもらいました。

—歴史コラム—



豊かな自然と文化の街、日下

生駒山麓～日下地域、河澄家の
過去から現在に至るまでのおはなし

【辻子谷の水車と産業】

近鉄奈良線石切駅から興法寺に向かつて辻子谷沿いに東に一キロほどのところに、「辻子谷の水車・ほたる」があります。この施設は地元の有志によって復元された直径約6mの水車と、1/7大の製粉工場の模型が設けられ見学できるようになっています。



辻子谷の水車・ほたる
上石切町昭楠会

生駒山麓には車谷、日下谷、辻子谷、額田谷、豊浦谷、客坊谷、鳴川谷の生駒七谷と呼ばれた谷があり、これらの谷川筋では水の落差を動力に利用する水車が設けられ、すでに近世以前から精米、製粉、掘りなどの農業用途や自給的消費生活に使われてきました。枚岡市史第二巻（水車の分布とその変遷）によるとこれら生駒七谷の水車が工業用途に使われるようになったのは近世に入ってからで

寛永年間（一六二四—一六四四年）に辻子谷の後藤久右衛門によつてはじめて胡粉（こふん）製造が行われ、元禄年間（一六八八—一七〇四年）以降は和漢薬種細末加工にも利用されるようになりました。この辻子谷では宝暦の頃（一七五一—一七六四年）すでに十一両の水車があり、天保九年（一八三八年）にも同じく十一両の水車が細末加工用途で動いていたことが、「水車細末方約定之事」という文書の記録から知ることができます。

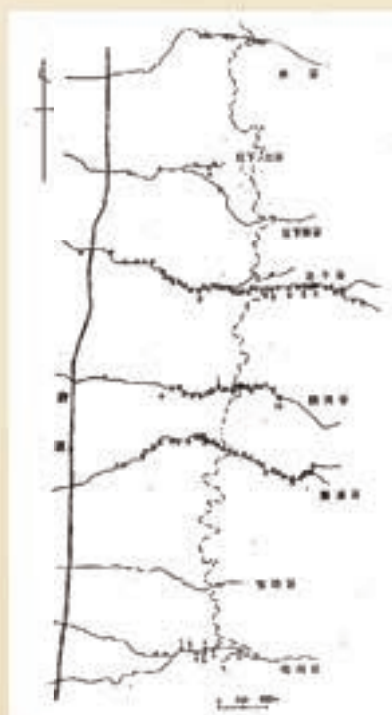
明治以降、各谷川筋では、絵の具用胡粉製造や薬種細末、伸線加工（針金製造）、線香製造、金属製粉、精油・薬種油絞りなど水車の動力を利用した様々な産業が隆盛し、昭和中期に到るまで稼働を続けてきました。昭和十一年の調査では辻子谷には三十四両、車谷（菩提寺）に十二両、日下谷には五両の水車が稼働していたと記録されています。



製粉工場模型 1/7規模



辻子谷の水車



生駒七谷での水車房跡 昭和38年調査

出典：枚岡市史第二巻 P934

しかし戦後の電力利用の拡大と、元々谷川筋に設置されていた水車は運搬上の地理的な不利益があったことなども含め次第に水車利用は減少して行きました。加えて昭和二十八に大きな水害があり、多くの水車は甚大な被害を受け、大部分が電力を使用するものに切り替えられて行きました。

その中で最期まで水車が使われた用途としては和漢薬種細末と胡粉製造があります。これらは重量に比して高価なもので、運賃が価格を左右する割合が小さいもので、そのうちでも和漢薬種は電力による機械製粉の場合、加熱され一定の成分・品質を破壊することがあるために水車が従来通り使い続けられるという特殊な条件がありました。

辻子谷で最後の山西家水車が稼働を停止したのは昭和五十五年（一九八〇年）とされています。山西家の水車工場は、桁行七間、梁行四間の建物中央に水車を置き、水車から軸が両側に伸びて杵と臼四組を納めた小室が二室、その外側に杵と臼が三組の小室が各二室の合計二十八組の薬種製粉装置が稼働していました。

日下谷には二本の谷筋があり、北谷に三間、南谷に一間、合流点下流に二間というように分布していました。そして昭和三十八年時点で北谷で操業を続けていたのが胡粉を製造していた川口家です。



水車取り付け跡



辻子谷の水車小屋跡・樋台

明治二二年に第三回内国勲業博覧会への胡粉の出品に際して、川口家当主川口源七郎氏から大阪府知事宛てに提出された『胡粉製造解説書』には胡粉製造装置や製品について詳しく記録されています。

この解説書によると川口家にはかつて3棟の製粉工場があり、三棟合わせて一両の水車の軸の両側に挽臼二個、唐臼八個、胴付二個、貝車一個の合計十三個の臼が歯車などを組み合わせた機構が付属して稼働し、十三種類もの異なる胡粉製品が製造されていました。川口家で製造された胡粉は、絵の具、珊瑚模玉、漆器の下地の他に、最も需要の大きかった襦袢の上塗りに使用されていました。胡粉の製造には播磨国や安芸国から仕入れた蛸殻が原料として使用され、蛸殻を細かく粉砕して最上級の胡粉を製造し、製品は下請けではなく自社製品として大阪方面の業者に直接販売されていたようです。

日下町の日下川流域では水車が設置されていた痕跡を各所で見ることができ、江戸時代から昭和中期まで水車が生み出した産業の歴史を垣間見ることができます。



川口家の製粉工場水路跡
出典：枚岡市史第1巻P714



川口家の製粉装置/中工場
(昭和三七年)



川口家の製粉装置/大工場
(昭和三七年)

旧河澄家にて開催しましたイベント＆展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report

カラーワイヤクラフト教室

二〇一三年十一月三日（月・祝）開催



旧日本化線 講師



カラーワイヤクラフトのサンタ（左）と
ガーランド（右）

自在に形を変えることができるカラーワイヤを使ってクリスマスに飾るサンタクロースとガーランドを作る教室を開催しました。東大阪市高井田にあるカラーワイヤの総合メーカー、旧日本化線のカラーワイヤを使い、同社から来ていただいた講師に指導いただきました。社長さんもうらっしゃって、同社製品のお土産もいただきました。

作り方の説明を受けた後に、見本の絵に従って、カラーワイヤを曲げていきました。ガーランドの見本の中には、旧河澄家のお庭にあるカヤやイチヨウもありました。ワイヤクラフトはコツをつかんで慣れるまでは、難しいと感じられた方もいたようですが、皆さん素敵に仕上がっていて、少し早めのクリスマス準備ができました。

万葉の花講座

二〇一三年十一月十二日（日）開催



講師の
片岡幸豊さん



万葉の花講座の様子

華道家で、万葉の花研究家の片岡幸豊さんをお迎えして、第三回「万葉の花講座」を開催しました。万葉集に詠まれた歌と植物をわかりやすく解説していただき、万葉びとの心や暮らしに触れました。「万葉集」は、二十巻・約四千五百首の歌が詠まれています。その中で花に心を託した歌など、花を中心とした歌は、千五百首首もあり、百数十余りの植物が登場しているそうです。

今回は、古くから親しまれてきた薬用植物をご紹介します。薬草として漢方や生薬に使われてきた草花で、山上憶良が詠んだ秋の七種をはじめ、七首（葎、桔梗、松、竹、梅、玉簪）の万葉歌とともに薬用植物の効能、季節や暮らしに寄り添った植物の解説をしていただきました。花に寄り添い過ごされてる片岡さん、心豊かに歌を詠んだ万葉びとのようにゆっくりと時の流れを感じ、美しい花を愛で、移りゆく四季を慈しみ、歌を詠みたくなる気持ちになれるって素敵ですね。

秋季ハイキング

二〇一三年十一月 六日（日）開催



解説する川向章介氏



解説を聞く参加者



旧河澄家HP
イベント情報

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/

押し花アート体験

一〇一三年十二月三日(日)開催

地元の押し花倶楽部「万葉(よろづは)」代表、来田容子氏を講師にお招きして、様々な色の押し花を使ってミニ額を作る押し花アート体験を開催しました。このイベントは「ひがしおおさか体感まち博」プログラムの一環として企画されたもので、東大敷市を中心とする関西地域からご参加をいただきました。参加者に配られた数多くの色鮮やかな桜の花びら等の押し花を、ピンセットを使って台紙上に絵を描くように置いてゆきます。押し花の配置が出来上がったら、袋状の透明なバックで包んで、中の空気を吸い出す特殊な密封処理を施して出来上がりです。作られたミニ額は玄関や机の上に飾ったり、メッセージを入れてプレゼントにすることもできるので、参加者の皆様には押し花アート作品作りを思う存分楽しんでいただきました。



押し花アート体験の様子



押し花アート作品見本

新春大道芸公演と昔遊び

一〇一四年一月七日(日)開催

孔舎衛校区福祉委員会主催により「新春大道芸公演と昔遊び」が当館を会場にして開催されました。大道芸グループ「河内小梅」の皆様による大道芸公演は十時半から一時間毎に計三回行われ、様々な縁起物の形を、掛け声のリズムに合わせて連続して作り上げる「南京玉すだれ」や、傘の上でボールなどを回す「傘回し」、複数の皿を柄を使って回す「皿回し」などの大道芸がユーモアあふれるトークも交えて演じられ、江戸時代から続く日本の伝統芸能を存分に楽しんでいたいただきました。また奥座敷や庭の会場では、昔正月遊びの定番であったコマ回しや羽根つき、百人一首やピー玉遊びなど遊ぶことができ、家族連れの参加者たちは最近では見られなくなっていた昔遊びを体験するとともに、お餅のお土産も全員に配られ、正月明けの楽しい一日を過ごしていただきました。



河内小梅一座による大道芸



昔遊び百人一首の様子



参加者のスノードーム

「スノードームも

鬼の墨彩画展

令和六年一月二十日から二月十二日まで地域の墨彩画家阪口真智子氏による「鬼の墨彩画展」を開催いたしました。

東大阪市生まれの阪口真智子氏は小学校のころ画家になることを志し、親の希望で薬学の道に進むも絵は書き続け、これまでに様々な公募展に出品し、多数の賞を受賞されています。現在は東大阪市五条町の自宅と、三重県美杉村にアトリエを構え、個展を中心に作品を発表しているそうです。

会場には墨と絵の具で描かれた鬼の墨彩画四七点を展示し、中には今年の干支である龍と鬼が描かれた作品も含まれ、節分のこの季節と古民家の部屋の雰囲気によく馴染んだ作品が並べられています。



会場入り口の案内表示



ザシキの展示



ナンドの展示



檜間床の間の展示



シモダイドコの展示

絵を描いて教える
阪口真智子氏

鬼の絵とメッセージ



イベント参加者による作品

「かゆいかゆいおーかゆい。かゆいところ」に手がとどくおまきがそばにいてほしい。」動きがあり表情たっぷりの鬼がつぶやく心温まるメッセージが書き添えられています。

見学に来ていただいた方々には、墨と絵の具を巧みに使い分けて描かれた墨彩画の鬼達の豊かな表情やしぐさ、そして鬼の絵に書かれたユーモアあふれる言葉にうなずきながら、ほっこりとした気分が阪口真智子氏の墨彩画の世界を堪能していただきました。

鬼のお面づくりと

チョコレート豆まき

二月三日(土)には、阪口真智子氏指導による「ワークショップ鬼のお面づくりとチョコレート豆まき」を開催しました。イベントでは阪口氏から鬼の絵の描き方を指導してもらい、参加者は思い思いの鬼の絵を完成させました。その後マスクや紙皿に鬼を描いて鬼のお面を作り、作ったお面をかぶって鬼に扮装した参加者にチョコレートの豆まきをしました。絵の創作を楽しくできる良い機会となりました。

やさしい暮らし 昔にならう

桃の節句展

「祖母の手作りの雛人形」

二月十七日(土)から三月十日(日)まで桃の節句展を開催しました。

三月三日の上巳の節句は水辺で災いや穢れを祓う行事でしたが、江戸時代に女の子の健やかな成長と幸福を祝う



最後か!

次はボク!

きみえ作!

噂からわ!

鳥帽子のひもを結んでくれー



鳥帽子のひもを結んでもらう五人囃子

「雛祭り」として成立し、現在に至ります。旧河澄家では日本の年中行事の一つとして大切にしています。毎年恒例のため、開催前から「今年も楽しみにしています」とお声をかけていただくことも増えました。雛人形を展示すると、赤ちゃんや子供たちが旧河澄家を訪れてくれ、にわかに活気づくので、お雛様たちも喜んでくれるのではないかと思います。

今年も様々なご家庭からご寄贈いただいた雛人形九組と昨年に引き続き、東大阪市荒川の松よし人形さんからお借りした親王飾り合わせて十組展示しました(現在雛人形のご寄贈は受け付けていません)。今回は、ご寄贈いただいた九組の雛人形の購入された経緯やそれぞれの家族の想いを改めて掘り起こすため、いくつか聞き取り調査を行いました。お聞きしたエピソードを、雛人形の側にパネルにして設置しました。例えば、整理ナンバー十八の



木目込み人形の三人官女



「きみえ作」と書かれた雛人形

木目込みの七段飾りの雛人形は、昭和五十年四月に誕生した女の子のために、当時同居していた父方の祖母が木目込み人形を習っている縁で、手作りしてくれたそうです。立派な雛調度や雛道具もついた七段飾りですが、当時は松屋町に七段飾りの木目込み人形のキツトのようなものが売っていたのだそうです。そのため、雛人形の木札(立札)には、祖母の名前である「きみえ作」と記されています。ちなみに関西では、妻の実家が雛人形を買うという風習が一部にあります。この立派な七段飾りの木目込み人形にかかる諸々の費用は、妻の実家の母が持つてきてくれたと寄贈者様はおっしゃっていました。ナンバー十八の雛人形には、祖母たちの孫に対する温かな想いが詰まっています。

ちりめん細工でうさぎのお雛様作り&コンサート

二月二十五日(日)に松よし人形の皆さんを講師に招いてうさぎのお雛様を作る



2024年4月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

河澄は、池や田に自生する水草で、古くは農家の書や道具の文様として用いられてきました。葉の形が矢に似てることから、別名「箭草」とも呼ばれ、武家の家紋として人気がありました。

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性があります。詳しくはお問合せください。

陶芸展 77人の飯茶碗 / 陶芸体験教室

3/16(土)
～4/14(日)

女流陶芸家 桜井智子さんの作品、幾何学文様皿・茶碗と石切工房・桜陶庵の教室で制作された飯茶碗作品 77 点を展示します。

会期中の3月24日(日)には、桜井智子さんの指導で、手まわし器で花瓶づくりを開催します。小学4年生以上の方(小学生は保護者同伴)が参加可能です。参加費は500円です。



見学無料

端午の節句展 / 鯉のぼり作り & コンサート

4/20(土)
～5/12(日)

毎年恒例の端午の節句展を開催します。桃の節句展同様に地域のご家庭からご寄附いただいた五月人形と鯉のぼりを展示します。

会期中の4月21日(日)には、近畿大学 峰崎ゼミ生と鯉のぼりのペーパークラフト作りとアンサンブル・ビバーチェによるコンサートを開催します。3歳以上の方(未就学児は保護者同伴)はどなたでも参加できます。参加費は無料です。



見学無料

生駒山自然観察ウォーキング

5/5(日)

5月5日の子どもの日に、東大阪市山地保全協議会副会長 清水満氏をガイドに迎え、近鉄なるかわ園地つつじ園周辺の植物や自然を探索します。近鉄枚岡駅前に集合し、近鉄 飯草山駅で解散します。中学生以上の方が対象で、定員20名です。昼食、飲み物をご準備いただき、帽子をかぶり、登山靴でお越し下さい。参加費は無料です。



参加無料

論語の素読会

毎月
第2・第4
土曜日



声に出して文字を読む「素読」。